



第132号  
野毛山幼稚園  
横浜市西区老松町30  
TEL.045-231-0150

### 幸せなら 態度でしめそうよ ほら みんなで 手をたたこう

野毛山キリストの教会牧師  
野毛山幼稚園長 奈良 昌人

「すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かつて喜び歌い、叫びを上げよ。」  
(詩編47編2節)

幼稚園の一学期、初めての親子一緒に行事は5月の母の日の集いで、礼拝と交わりの温かい時間を過ごしました。そして6月の年長ゆり組の父の日の集いで、お父さんたちと一緒に礼拝をささげた後、幼稚園で一緒に遊ぶという、普段できない父と子の楽しい時間を過ごしました。母の日も父の日も、終わり近くにプレゼントの絵を渡して感動の時を迎えます。そして、その後、子どもたちはお母さん、お父さんの背中に回って「よしあわせなら 肩たたこう! とんとん」と肩をたたき、日頃の労を労ねぎらい、とても温かく幸せな時間が流れます。この歌の本来の歌詞は「幸せなら手をたたこう」です。この歌は60年前に坂本九さんが歌って大ヒットしました。今年、この歌の誕生秘話が『幸せなら手をたた

こう誕生物語』として漫画化されて日本語版と英語版で出版されました。その記事を紹介いたします。作詞者、早稲田大学名誉教授の木村利人さん(90歳)が1953年にYMCA国際ワークキャンプに参加した時に、一人の生まれました。木村さんは16歳の時にキリスト教の洗礼を受けています。健康と医療による開発活動の一環として行われたもので、木村さんの一番の仕事は「トイレ」をつくることでした。このダグパン地域は戦時中、日本軍がフイリピン軍だけだけでなく民間人に対しても残虐行為を行った地域で、戦後、日本人が訪れたのは木村さんが初めてでした。戦時中、日本はアジアの植民地解放のために戦っていることを教えられてきた木村さんは、ここで初めて日本がアジア諸国に犯した罪を知ることになりました。日本兵によつて家を焼かれ、家族や友人を殺りくされたフイリピンの人たちにとつて木村さんは、憎しみの対象でしかなく、時にはひどい言葉を吐きかけられることもありました。そんな中で友好的に接してくれたのが、ラルフというフイリピン青年でした。実は、ラルフも、日本兵によつて父親を虐殺されていましたが、それでも「利人、お前が家族や友達を殺したわけではない。僕たちはキリストにあつて友だちだ。僕たちはキリストにガン」と語りかけてくれました。そして、「僕らは憎しみを超えて、平和を次の世に代につないでいこう。」と仲直りすることができた喜びを覚えて、「絶対合ったそう

です。葛藤に苦しみながらも自分を受け入れようとしてくれるラルフの優しさは、フイリピンの人たちから決して赦されることはないと思っていた木村さんの心に希望をもたらしました。ラルフの優しさに応えたいという思いから、詩編47編の「すべての民よ、手を打ち鳴らせ。神に向かつて喜び歌い、叫びを上げよ。」をヒントに詩を作り、現地の小学校でよく耳にしていたメロディーをつけました。坂本九さんがテレビで歌い大ヒットし、1964年の東京オリンピックでも使われて、日本だけでなく世界中にも広まりました。木村利人さんは「し・あ・わ・せ」の「し」は自分たちの歴史を知ること、「あ」は、人を愛すること、「わ」は平和の「和」であり、同時に、人々のつながりの「輪」、ネットワークの輪を広げることです。そして「幸せなら態度で、世界を変革しましょう」というのが、この曲に込められた思いで、90歳ですが、世界の人々が平和のうちに共に生きられるよう、これからの思いを指して生きていこうと思つていきます。 (Krishin 5.11より抜粋)

今年の8月15日は第二次世界大戦の終結から79回目の終戦記念日です。今、世界では、過去の惨劇を忘れてしまい、過ちが繰り返され、幼子が命を奪われていることを悲しく思うと共に、為政者への怒りがこみ上げてきます。子どもたちが平和な世の中を引き渡せるように、私たちおとなが「幸せなら態度でしめそうよ」と、私たちの周りから平和に過ごし、平和を広げていきましょ